

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者、職員個々が地域密着のサービスの意義を理解している又、事業所独自の理念は、日々意識を保つ為にも入口正面に掲示され、2Fにも掲示されている	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送り、ケア会議等で日常的に話し合いながら、理念の確認共有に努めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	事業者の理念は、運営推進会議において家族、町内会の方々に、活動内容を報告しながら伝えられており理解されている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域住民との交流は無いものの、草刈・納涼祭・卒園式等の行事の参加は積極的に行っている。また、前年度よりキャラバンメイトの申し込み(研修参加)や、ボランティア(インターシップ)の受入を積極的に行っており、実績は少ないものの浸透されつつあると実感している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全ての職員は自己評価表の作成を行っており、それを元にはおずきの自己評価表を作成している。また外部評価を行なうことによって、自分たちでは気が付かなかった事が気が付くという面で、大きなプラスになっている。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議を行っており、その会議には（毎回ではないが）地区連合会長、地域包括センター職員、利用者様ご家族の参加があり、意見要望等を聞くことによって改善に繋がっている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在では、会議等以外での交流は無い。他の事業所との行き来は増えつつあるが、市役所や地域包括センターとの交流は皆無である。	○ どのように交流を（会議以外で）行えばいいのか模索中。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員が研修やセミナーに参加しているに留まっている。	○ 地域権利擁護事業や、成年後見制度は今後ニーズが増えてくると思います。概ね概要は理解しているものの詳細については外部研修の参加によって学ぶ必要性がありその機会はある。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に関しては一切無いと自負している。しかし、何処までが虐待と捉えられ、何処までが虐待でないのか理解している職員が居るので研修や内部研修等で理解が得られるまで行っていければと考えている。	○ 外部研修を通してスタッフ一人ひとりが虐待防止関連法について理解するように取り組んでいる

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族の方に理解してもらえるように、当ホームを案内しながら説明している。また、重要事項説明書類を詳しく説明し同意を得ている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別ケアを各利用者様に行っており、意見要望は直ぐに吸い上げれるようにしている。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回の便りや面会時等を利用して報告している。普段あまりこられないご家族様には電話にて逐一報告している。希望の家族には連絡帳を使って報告することもある。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱があり、苦情の受付は、明示している。苦情があった際には公開して対応するようになっている。家族には気軽に話しかけられるような雰囲気作りを心がけている。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回個人面談を実施、また管理者と職員の壁を極力無くする様努力している。また、意見の吸い上げは何時でも行っており、言い出しにくい環境を作っている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	24時間、スタッフが常在しておりご家族様の意見や、利用者様の状態の把握に努めている。また、勤務時間にも手薄になる時間帯には、特に気をつけ柔軟な対応に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極力担当者からの変更は無いが、やむ負えない場合は変更行っている。しかし、変更あった場合は引継ぎ、利用者様と話し合い、利用者様に負担がかからないようにしている。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修においては職員がその必要性を認めている為、適宜参加している。また、受講後は報告書を作成し発表している。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や、定期総会に出席し交流を深めている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	年2回の個人面談や その都度話し合いの場を設けストレスの軽減や悩みの相談を行っている。また話しかけやすい環境づくりを管理者自身で行っている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自分の年間の目標を立て達成できるように向上心を持って、業務に取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込みから始まり、待機名簿を作成にするに当たり、ご家族様からのニーズを把握し理解に努めている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の利用希望や家族のニーズに対し一番何が必要か見極めている。待機可能かそれとも直ぐにサービスを提供しなくてはならない状況かを見極め、必要な処置を行っている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所時は家族も利用者様も不安な状態にある為、急がさずゆっくりと寄り添ったケアを心がけている。また、家族の話から記録に無いものの、些細な事が参考になる為、よく傾聴する。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お年寄りから教えていただく事は多くあり、感謝の気持ちを持って接し、支えあう立場も継続出来るよう馴れ合いにならないようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の希望思いを受け入れながら入所によって家族との関係が希薄にならないよう、共有して取り組むという関係を構築できるよう日々の利用者様の状態報告を詳細に伝える。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は家族と利用者様の仲介役を、より良い関係に持っていけるようこなし、家族の役割を阻害しないように配慮している。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人との繋がりの有る友人の来所は少なくなっている。その代わりにご家族様の来所が年々増えてきている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しないように、支援はしているものの個人の感情や、認知症状の悪化に伴い仲の良い利用者様同士の関係の構築には前年より希薄になってきている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	一概には言えないが、退所後も悩みや相談を聞いている家族もいる。退所時（契約終了時）にも、そのような声かけを行っている。	○	状態変化等により退所時は出来る限り入居者や家族の意向に添うよう退所先の支援を行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や、要望に対しては出来る限りの対応を行っている。また、どうしても行えない場合にはそれに近いサービスの提供に努めている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前居たサービス事業所からの情報の活用また、本人の価値観、生活環境をプライバシーに配慮しながら家族からも聞き取りを行っている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの状況の把握をしていて、それにあつたケアを行っている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者は普段から利用者様との会話を意識して取っている。本人の希望意見に沿った介護計画を作成する努力は怠っていない。ケア会議で職員間で討議もしており後日家族に承認を頂いている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の状態変化時は随時見直しを行っている。見直しの際は職員だけではなく、利用者様本人・ご家族様からも情報を収集する等して、本人にとって真のニーズは何なのか考えている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の健康状態、本人の言動変化のあった時は、その経緯を記録している。また、その情報を会議等で話し合い共有し実践、その後のケアへ繋げている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設の近隣には公園・病院（個人病院）・スーパーがあり、買い物・散歩等本人の要望に応じて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の一員として近くの公民館や幼稚園・保育園の行事に参加したりしている。運営推進会議において、民生委員の方に出席して頂いている等関わりを深めている。	○	実際には民生委員の方や、地域包括センターの方との交流を深めようと考えているのだが、現在は互いの時間の都合が合わず頻繁に行なえていない状況である。
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	2ヶ月に1回のペースで利用者様の希望でもある訪問理容サービスを利用している。また、馴染みの理容店を使っている利用者様もいる。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターの方との接点は希薄で、日時が合わず具体的な話し合いは薄い。	○	今後は時間の調整を行い、密にしていきたいと考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけの病院を聞き把握している。入所してからも受診できるように配慮している。また、変更時には家族の希望や了解も得て行っている。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関があり利用者様が認知症に関する診断から医療を受けられるようにしている。また、かかりつけの病院があり引き続き受診できるように配慮している。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	資格のある看護師は2名配置されている。それにより日々の体調管理等の徹底は行われている。また、協力医療機関との連携をとって特変事には指示を頂いている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者は利用者様が入院した時は、家族に安心していただけるよう早期退院に向け、病院関係者と連絡を取り合っている。	○	しかしながら、入院期間が長引いたり戻って来れない場合が発生した際には、その後のことをご家族様・医療関係者・当ホーム管理者と話しをして、その人に合った機関の選択を行っている。
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期に向けた看取りについては、早くから医療面について家族との話し合いを行っている。また主治医とも日常の健康管理や、急変時の対応の方針等確認している。	○	利用者様の状態によって今後必要であれば訪問介護の連携体制を整えたいと考えている。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所として対応が出来るか出来ないか、不安を解消するための話し合いはしている。また、医療機関や家族との連絡を密にして連携を図っている。	○	医療連携の整備が進んではいないのだが、協力医療機関との話し合いとご家族様との話し合いで、終末期までの体制を整えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えの際は、本人のダメージを最小限にするためにも家族への協力を働きかけ、移行先への詳細な情報提供を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は基本理念に基づき人としての尊厳の重視、プライバシーに配慮した業務を心がけている。個人情報の記録等は持ち出す事を禁とし、他利用者の目に付かない所に保管する等心得ている。また、個人情報漏洩防止の為、職員は同意書の記入もお願いしている。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来るだけ本人の希望、意思決定選択等していただいている。また、言葉以外にもしぐさや表情を観察し、本人の気持ちを理解するようにしている。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現在職員の人数も不足しているため、日々のケアが時間に追われ介護者側のペースで業務を遂行している。	○	前年と比べると格段に個別ケアは進歩している。個人の利用者様に対し自己残存機能を活かしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望で行きつけの美容院に行かれている方もいらっしゃる。また、身だしなみは本人の選択、決定に任せるよう職員は支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物から、調理手伝い、メニュー作りまで、利用者様の意見や手を借りて行っている。また、食事の配膳から跡片付けまで、職員と一緒にしている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、嗜好品（酒・タバコ）を嗜む利用者様はいらっしゃらないが、利用者様の希望に沿い、近所のスーパーにおやつ等買物に出ている。	○	嗜好品は本人の希望を可能な限り取り入れるようにしている。
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各利用者の排泄パターンを理解し、記録している。自立に向けトイレ誘導・オムツの見直し等、支援している。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員は入浴時の羞恥心や入浴困難者を理解して支援している。また、入浴拒否時は、無理強いせず本人の意思も尊重している。	○	現状は好きな時間帯に入浴はしていない。しかし、習慣になりつつあるので、今のままの形を維持していきたい。人数不足を考えれば今の状態が最適と考える。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活リズムを整え、日中の過ごし方を工夫して安心して眠れるよう支援している。どうしても必要な際には、家族や医療機関と相談して、眠剤の服用をして頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者様の生活歴や家族からの情報に基づき、なるべく本人が好きな役割を与えることにより、日常生活に張りを持っていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を個人で持っている利用者様は現在は居ない。しかし、個人で買物や行事等で金銭を使用する場合は極力利用者様に払っていただいている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の身体状況に合わせ、買物・散歩・ドライブ等に出かけている。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段の会話から、本人の行きたい所を把握し家族の協力を得ながら出かけられるよう支援している。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の利用者様に対しては電話を使用してもらっているが、取次ぎ等のことは現在頻度が無い。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族及び知人の方が気兼ねなく訪問、面会出来るよう職員は過しやすい雰囲気作りをしている。家族と利用者様が静かに過せるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員は身体拘束の内容やその弊害について理解しており、やむを得ず身体拘束を行う際には家族に説明し同意を得ている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出来る限り施錠はしないようにしているが、階段は転落の危険がある為、やむを得ず施錠している。		
64 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に見守りして、所在確認や安全確認をしている。職員の連携や申し送りの時の引継ぎ等も、利用者様のその日の状況を把握して対応している。		
65 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗剤、包丁等は、決められた鍵付きの場所に保管しており、利用者様の状態に合わなくなった時は再検討している。		
66 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	いくら状態の安定している利用者様でも、服薬や特に夜間の歩行に関しては、注意を払っている。		
67 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを作成している。そのほかにも職員は応急手当や、救命救急の研修に参加する等、努力している。		
68 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年より、消防直通装置の設置、また1年に4回は避難訓練の実施を行っている。また災害時非常持ち出し品（食品の備蓄）も常駐している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりの認知症状態、身体状況に合わせ、その対応策を家族に説明し個人に起こりうるリスクについて、敵意話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入浴時や、日々の生活を支援している最中に気を配っている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様の薬の内容を極力把握しており、薬一覧表も活用している。また、確実に内服出来るように見守り介助し、薬の変更があった際は全職員に伝達している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	出来るだけ自然排便できるよう、職員は利用者様の排泄状況を把握している。便秘の際には十分な水分、トイレ誘導のタイミング、牛乳等の摂取を促し、安易に薬に依存しないよう配慮している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの見守りと促しをしている。職員は誤嚥性肺炎の怖さを勉強会等で把握し、事故防止に努めている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に合わせて、ご飯の量やおやつ等の量等調節している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症の予防等のマニュアルは作成されており、それに関する研修にも参加している。また、流行時には情報収集に努め早期対策している。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	一週間に一回冷蔵庫の清掃を行い、食中毒防止3原則の徹底に努めている。食材も消費期限を細かにチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関付近に季節の花や観葉植物を置いて入りやすい雰囲気作りをしている。また個別ケアとして、週1回活け花を行っている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差し等はブラインドを使って調節しており、職員も足音等、騒がしくないよう配慮している。テレビの音量は利用者様に合わせ調節しており、夜間の居室の照明は、安全面を優先して一人ひとりに合わせている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ハード面で共有空間は食堂しかなく、食堂でくつろぐ事が多いが、気の合った利用者様同士は互いに居室を訪問しあって、談話されたりしている。	○	2階にはベランダ（バルコニー）があり、眺めも良いのでベンチを置くなどして活用していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	ご家族の写真・小物等馴染みのものを持ってきて 頂けるよう、家族に協力を呼びかけている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	窓の開放、換気扇、消臭剤等で随時対応してい る。又日々の温度・湿度を把握しながら利用者様 の状態に合わせて室温調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手すりの設置をし本人の身体機能を活かした対応 をしている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	本人の居室前には利用者様の写真や似顔絵をは り、本にも外来者様にも、わかりやすく間違えな いよう工夫している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	建物の外にはベンチが置かれていて、天気の良い 日にはくつろいで頂き、畑もあるので収穫時期に は手伝って頂いている。また、植物の水やり、洗 濯物干し等個人に合わせて活動して頂いている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	●ほぼ全ての利用者の ② ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	●毎日ある ② ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ●利用者の2/3くらいが ③ ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ●利用者の2/3くらいの ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ●利用者の2/3くらいが ③ ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ●利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ●利用者の2/3くらいが ③ ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ●家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ●たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ●少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ●職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ●利用者の2/3くらいが ③ ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ●家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域交流（夏祭り・草刈・地域図書センター）が徐々に増え始め、利用者様から見て有意義な生活を過ごされている。また、個別ケアに力を入れ個人の趣味趣向を取り入れ、日々の生活に役立っている。